

(別紙)

令和4年度第1回八戸市青少年問題協議会の書面協議に  
おいて寄せられた御意見、御感想、活動内容等の主なもの

(委員及び幹事の皆様、貴重な御意見、御感想等ありがとうございました。)

- ・ 3年間も続いているこの状況ではありますが、できることから一歩ずつ「確実に」活動を進めています。子どもの成長における段階は一度きりですので、そのタイミングを逃すことがないように可能な限り体験等の提供、支援ができればと考え活動しています。
- ・ コロナ禍においても、可能な限り行事等中止することなく行っています。ただし、密を避けるため保護者や地域の方々の参観等、人数制限や時間差での対応をお願いしているところです。
- ・ SNSを通じての被害、トラブルが散見されております。今後も非行防止、健全育成のため、連携して各種施策推進してまいりたいと思います。
- ・ 市から管理指定を受け、児童館を管理運営しているが、コロナ禍において、やむなく利用制限や閉館を余儀なくされることもあることについて、保護者並びに関係機関のご理解・ご協力をお願いしたいと思っています。
- ・ 会うことができない、集うことができない、という状況からは脱却したものの、行っても行かなくてもいい…とか、コロナや体調不良を理由に行かないという選択肢ができたことが社会に大きな影響をもたらしており、私の子も含め私の知り合いの子供さんなどの話からも学校を休みがちになったり、不登校になるという状態になることが問題になっています。強い心をもって、接する必要があると考えています。
- ・ 現代の子は素直でいい子が多いと思うが、か弱さも感じます。また、実体験が少ないと感じます。若年から多くの体験をさせることは子の育ちにとって大切なことです。
- ・ 当会が実施している学校を訪問して児童生徒に非行防止や薬物乱用について情報提供を積極的に行っていきます。
- ・ 子どもの人格の基盤は、やはり家庭にあり、地域では各団体が連携して子ども達を見守っていくことが大切だと思います。

- コロナ禍により当協会の大きな事業である、八戸市総合体育大会が今年度も中止となりました。また、各地区の体育振興会による運動会も中止となっている状況であります。  
小学校スポーツ活動の運営形態は「学校型」から「地域型」や保護者・地域主体で運営を支える「学校地域形」へ移行する学校が増加しています。
- 下校時のパトロールの実施、各地区の行事の要請に応じた活動をしています。
- 学校での生徒の様子としては、近年かなり落ち着いている状況です。ただし、SNS絡みのトラブルやいじめは水面下で発生していると感じられ、対応に苦慮しているところです。
- コロナ禍に於いても地域の青少協（根城、田面木）では、毎月会合を実施し情報交換をしています。
- コロナ禍の中、幼児の遊び場として公園の利用が多くなってきています。いろいろな方が利用していますので、安全面やトラブルがないよう気を配っていく必要性を感じています。
- 地域コミュニティが希薄化してきているからこそ、より一層連携強化の必要性を感じています。
- 発達障害を有する児童の不登校、家庭内暴力の相談の背景に、スマホゲーム依存が見られたり、SNSに絡む相談が多い（1～8月末で26件）ので、情報モラル教室等（小2校、中4校、高3校 計9校）を実施し、安全なネット利用を呼びかけています。